

一人一人が今できることを考えるー 仙台防災未来フォーラム

3月9日、仙台国際センター等を会場に「仙台防災未来フォーラム2024」を開催しました。今回のテーマは「仙台枠折り返しみんなでできる防災」。地域団体や企業・大学など延べ139団体が出席し、日頃の活動について発信しました。

◀小学校で育苗した「ハマヒルガオ」などの植物を、岡田新浜の海辺に植栽する活動について発表する児童たち



このうち、宮城野区の津波被災地における復興についての発表では、津波により巨大なビルタンク4基が倒壊しながらも約半年で操業を再開したキリンビール仙台工場の歩みが紹介されたほか、岡田小学校の5年生3人が、津波で壊滅状態となった海浜植物の再生に向けて取り組んでいる「ハマヒルガオプロジェクト」について説明しました。

また、ワークショップ「せんだい災害VR体験&マイ・タイムライン作成」では、参加者がVR(仮想現実)のゴーグルを装着して大雨による水害の様子を疑似体験。家の中に水が流れ込んでくる脅威を体感した後、災害時に自分や家族がどのように避難すべきかな

のかをイメージしながら、家族一人一人の避難計画である「マイ・タイムライン」を作成しました。このほか、令和6年能登半島地震の復興支援について考えるシンポジウムや、日頃から必要な備えを紹介するブース展示などのさまざまなプログラムが行われ、学びを深める1日となりました。

市政トピックス

東日本大震災仙台市追悼式を開催

東日本大震災の発生から13年となる3月11日に、宮城野体育館で東日本大震災仙台市追悼式を行いました。式にはご遺族など約220人が参加し、地震発生時刻の午後2時46分に全員で黙とうをささげました。郡市長は「犠牲となられた方々の想いを心に刻みながら、全ての人が輝き、笑顔と活力があふれる仙台にしていけるよう力を尽くすことを誓います」と式辞を述べました。その後、被災した方々の有志で構成された「みやぎの『花は咲く』合唱団」の皆さんにより、歌がささげられました。また、勾当台公園市民広場や区役所等に設置された献花場には、

市政トピックス

令和6年度の主な組織改正(4月1日付)

脱炭素都市の実現に向けた取り組みの強化のために(環境局)

●脱炭素都市推進部の新設および地球温暖化対策推進課の分割

まちの脱炭素化に向けた取り組み強化のため、環境部を分割し、「環境部」とともに、「脱炭素都市推進部」とするとともに、地球温暖化対策推進課を分割し、「脱炭素政策課」、「脱炭素経営推進課」および「先行地域推進室」としました。

ダイバーシティの推進のために(まちづくり政策局)

●ダイバーシティ推進課の新設 誰もが自分らしく活躍できるまちの実現に向けた取り組みを強化するため、政策企画部に「ダイバーシティ推進課」を新設しました。

長町地区におけるにぎわいの交流拠点形成のために(太白区)

●長町地域活性化推進室の新設 長町地区におけるにぎわいの交流拠点形成のため、太白区まちづくり推進部に「長町地域活性化推進室」(課相当)を新設しました。

●救急需要の増加や救急活動の高度化等への対応のために(消防局)

●救急部の新設と救急企画課および救急指導課の新設

増加する救急需要等への対応の

約7千人の方が追悼に訪れ、犠牲となられた方々のご冥福をお祈りしました。

市政トピックス

EVバスに乗って仙台城跡へー自動運転に向けた調査を実施

市では、回遊性の向上を目指す青葉山エリアにおいて、自動運転のEVバス(電動バス)を運行するサービスの実現に向けた取り組みを行っています。

2月11日・12日・17日・18日に、地下鉄国際センター駅から仙台城跡までの区間で、自動運転に必要な周辺環境のデータ収集や利用者のニーズ調査を行うための運行調査を実施しました。調査期間中は、自動運転技術を搭載したEVバスを手動で運行。観光客など延べ849人が乗車し、現在一般車両が通行止めとなっている市道仙台城跡線を走行しました。利用者は、バスの周囲約150メートルの道路状況等をリアルタイムで映す車内モニターを興味深そうに眺めたり、EVバスならではの静かな乗り心地を体感したりしていました。自動運転のEVバスの導入により、バスの乗務員不足や観光時の交通手段確保などの課題解決が期待されるほか、二酸化炭素を排出せずに走行することで、脱炭素化

市政トピックス

仙台市実施計画を策定しました

市では、令和6年度から令和8年度を計画期間とする「仙台市実施計画」を策定しました。これは、令和3年度からの10年間を計画期間とする「仙台市基本計画」の着実な推進と実効性の確保を図るため、今後3年間に取り組む具体的な目標と事業をまとめたものです。今後、この計画に基づき、総合的かつ計画的に各種の施策を推進していきます。

実施計画は市ホームページのほか、4月1日から市役所本庁舎2階市政情報センター、宮城野区・若林区・太白区情報センター、区役所総合案内、総合支所等でご覧いただけます。

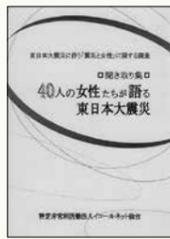


▲車両に搭載されたセンサーで、常に周囲の道路状況や人の動きを確認しています

3.11 震災文庫を 震読む

東日本大震災を語り継ぐため市民図書館に設けた「3・11震災文庫」。所蔵する約1万冊から、よりすぐりの本をご紹介します。

「東日本大震災に伴う『震災と女性』に関する調査」聞き取り集 40人の女性たちが語る東日本大震災」



NPO法人イコールネット仙台/編・刊

2012年、宮城県内の40人の女性を対象に、震災の経験について聞き取り調査を実施しました。協力者は、障害のある方やLGBTQの方、自治体職員等さまざまです。「職場から離れられないため、子どもの安否が確かめられず不安と心配の中にいた」、「1人暮らしの高齢の母親を寒さから守るために」、「この母を死なせてはいけない」と必死だった」等、女性たちの3月11日は筆舌に尽くし難いものでした。

女性たちは家族等のケアの役割を担いながら震災を乗り切ってきました。本書では、平時からあるジェンダーに関する課題が、災害時に顕在化し深刻化することを改めて伝えています。

「東日本大震災から10年を振り返る『震災と女性』に関する調査(2021)報告書」一人ひとりの真の復興をめざして」



NPO法人イコールネット仙台/編・刊

2011年9月、宮城県内の女性を対象に「東日本大震災に伴う『震災と女性』に関する調査」を実施し、10年を経た2021年、後継調査として本調査を実施しました。

この間、女性たちの暮らしはどのように変化したのか、一人一人の復興は果たされたのか。「家族」「経済」「地域」「健康」をテーマに調査を行っています。結果からは、震災以降女性たちがさまざまな防災活動に積極的に取り組んできたことが分かります。しかし、防災会議や避難所運営委員会など意思決定の場に登用されている女性の数は依然として少なく、防災・減災分野への女性の参画がより一層必要であることを提起しています。

●紹介した本は、市民図書館でご覧いただけます 問市民図書館 ☎261・1585